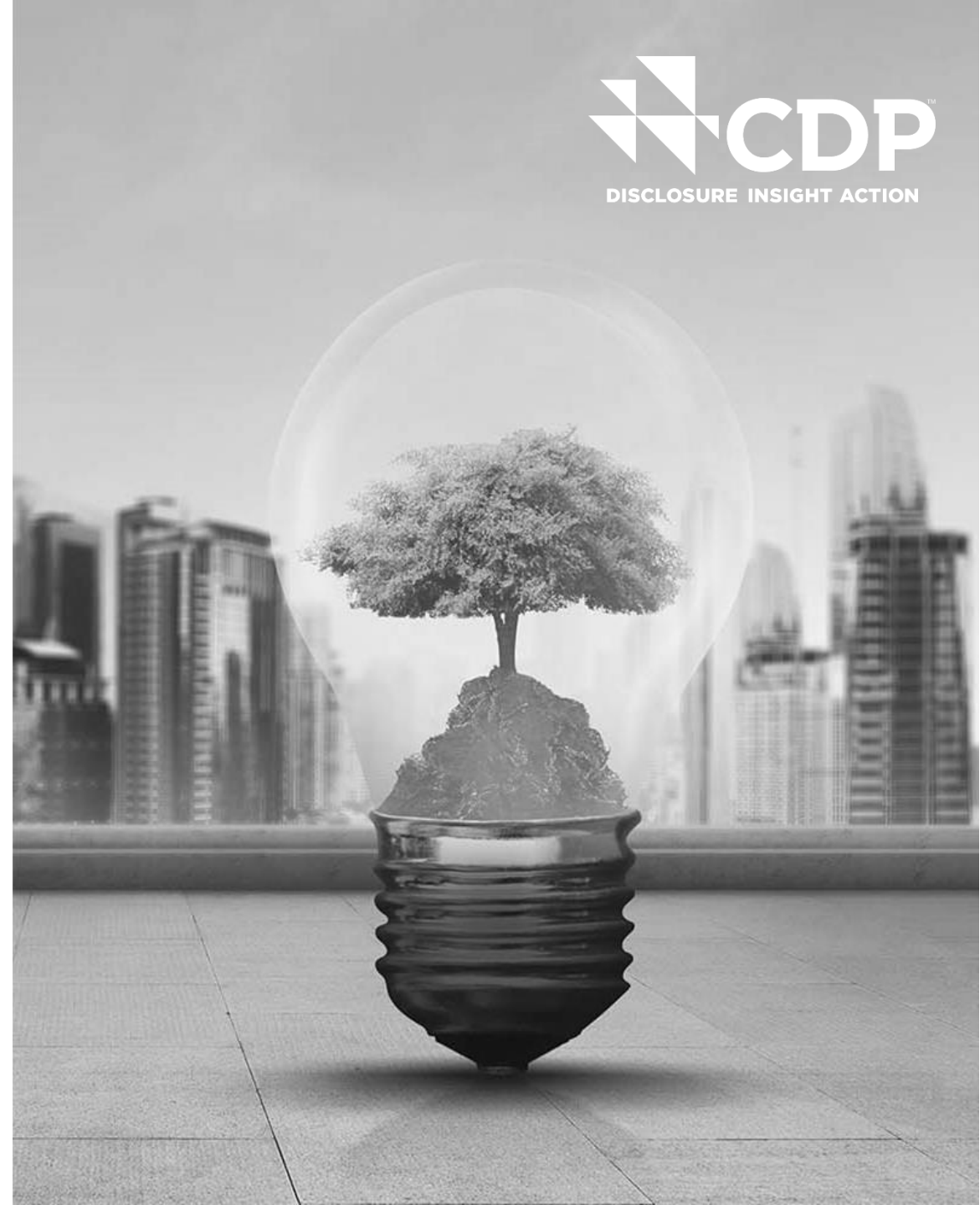


CDP2022気候変動質問書 「生物多様性」解説ウェビナー

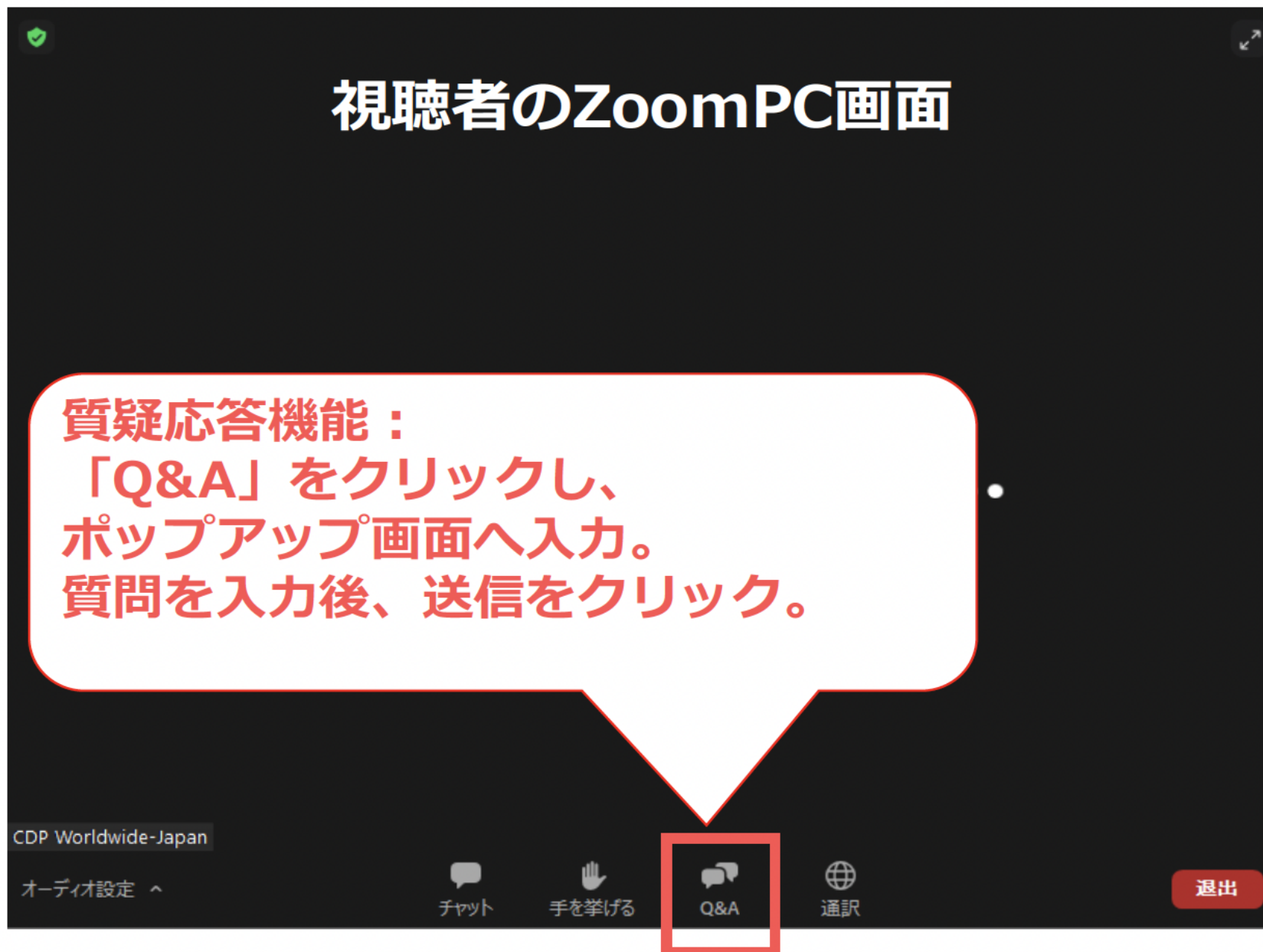
CDP 日本事務局
2022年5月13日

留意事項

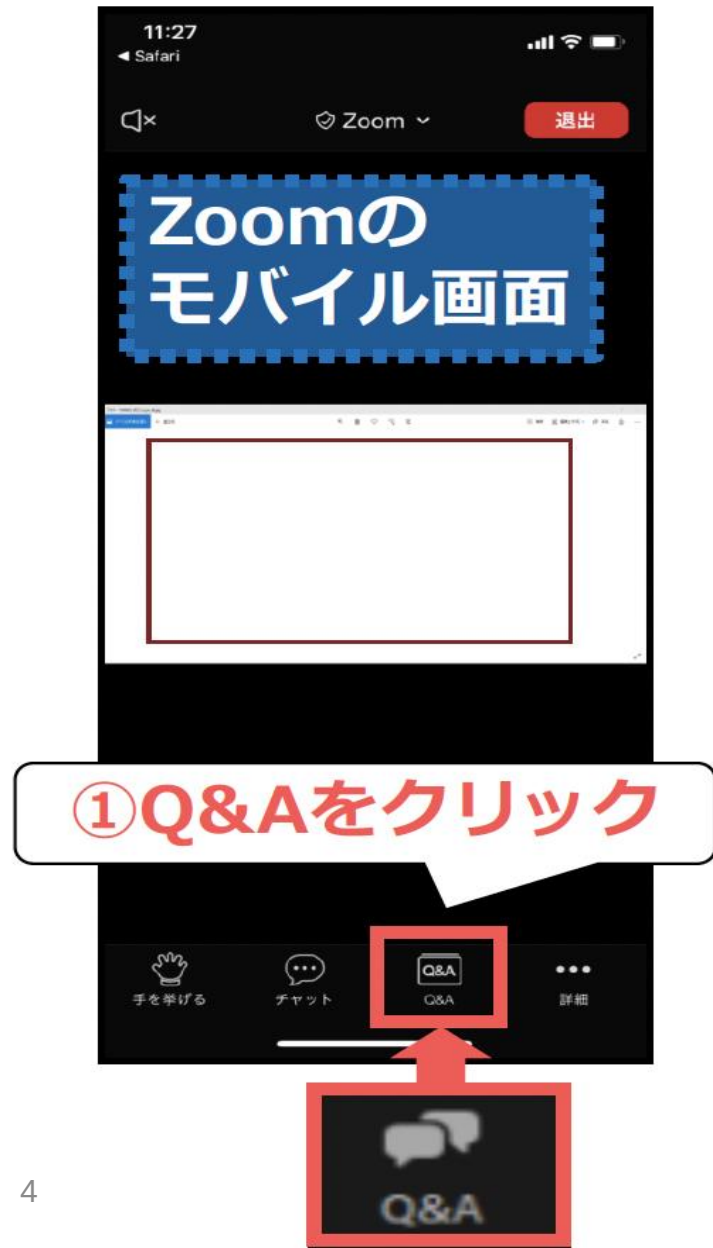
- ▼ 本ウェビナーの無断録画・録音・掲載は禁止しております
- ▼ 本ウェビナーは録画されており、録画及び発表資料は、後日にメールでご案内いたします。
- ▼ Zoom のQ&A機能を通じてご質問いただけます
 - ▼ Q&Aセッションをウェビナーの最後に設けておりますが、質問は随時お送りください
 - ▼ 時間の制約上、すべての質問にお答えできない可能性がございます。あらかじめご了承ください



質疑応答機能の利用方法：パソコンからご参加されている場合



質疑応答機能の利用方法：モバイルからご参加されている場合



本日の内容

生物多様性について

1. 生物多様性とは？
2. 生物多様性と自然の関係
3. 生物多様性／自然の現状
4. 生物多様性／自然とビジネスとの関係
5. ビジネスにおける生物多様性／自然はの重要性
6. 企業や金融機関による、生物多様性／自然リスクへの対応
7. 生物多様性、自然、気候の関係
8. 「ネイチャー・ポジティブ」とは？

生物多様性とCDP

1. CDP質問書における生物多様性／自然
2. 生物多様性／自然分野における他のイニシアチブとの連携

生物多様性について

1. 生物多様性とは？

生物多様性（Biodiversity）とは、特に陸上、海洋、その他の水域の生態系とそれらが構成する生態学的複合体を含む、あらゆる供給源からの生物間の多様性を意味し、これには種内、種間、生態系の多様性が含まれる。



- ✓ 生物多様性条約（CBD - UNFCCCの生物多様性に相当）の定義である「生物多様性とは、生物の多様性のレベルである」を引用

1. 生物多様性とは？

生物多様性は、環境財・サービスの提供を促進する。



出典：Natural Capital Protocolより抜粋

1. 生物多様性とは？

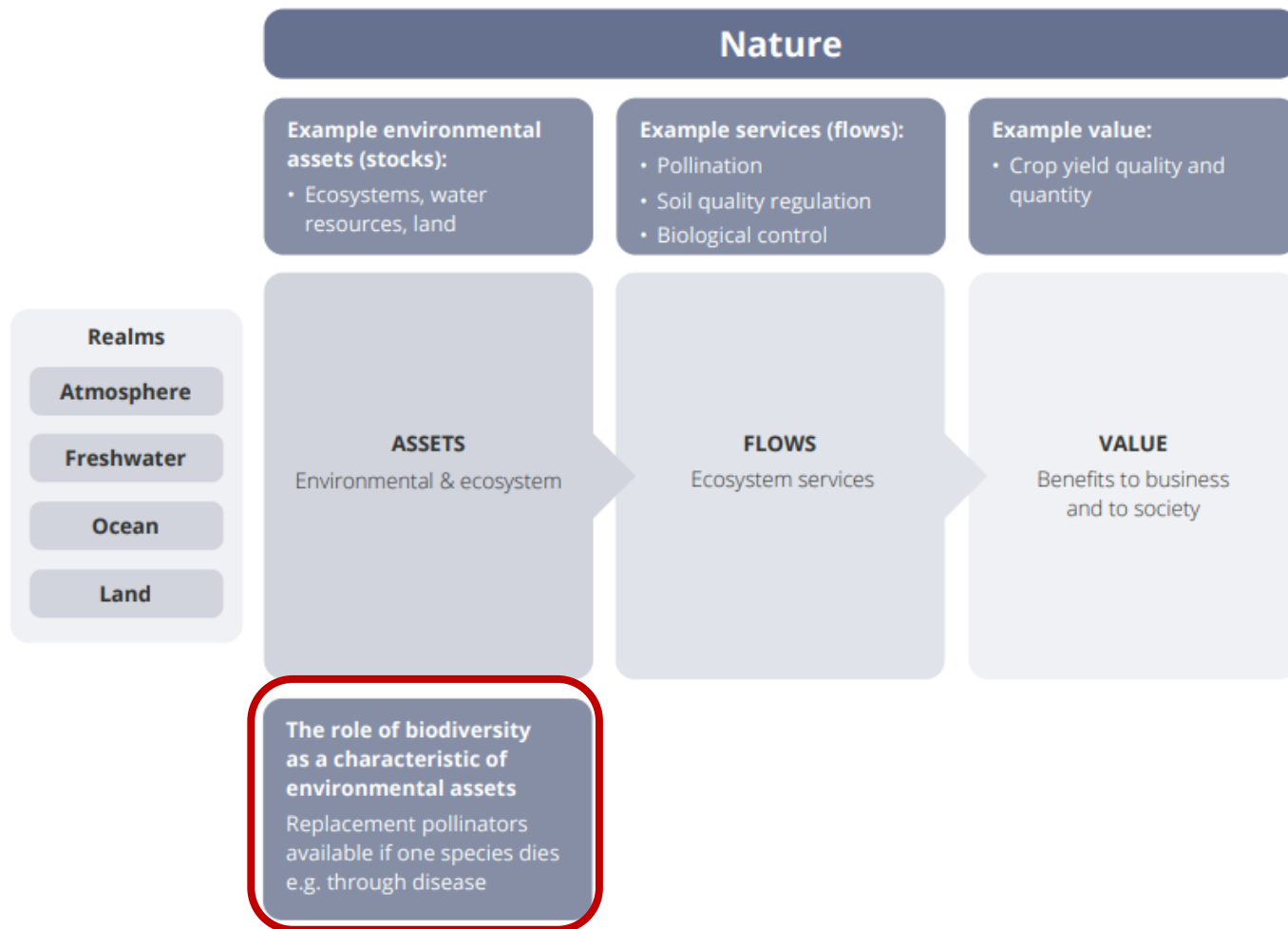
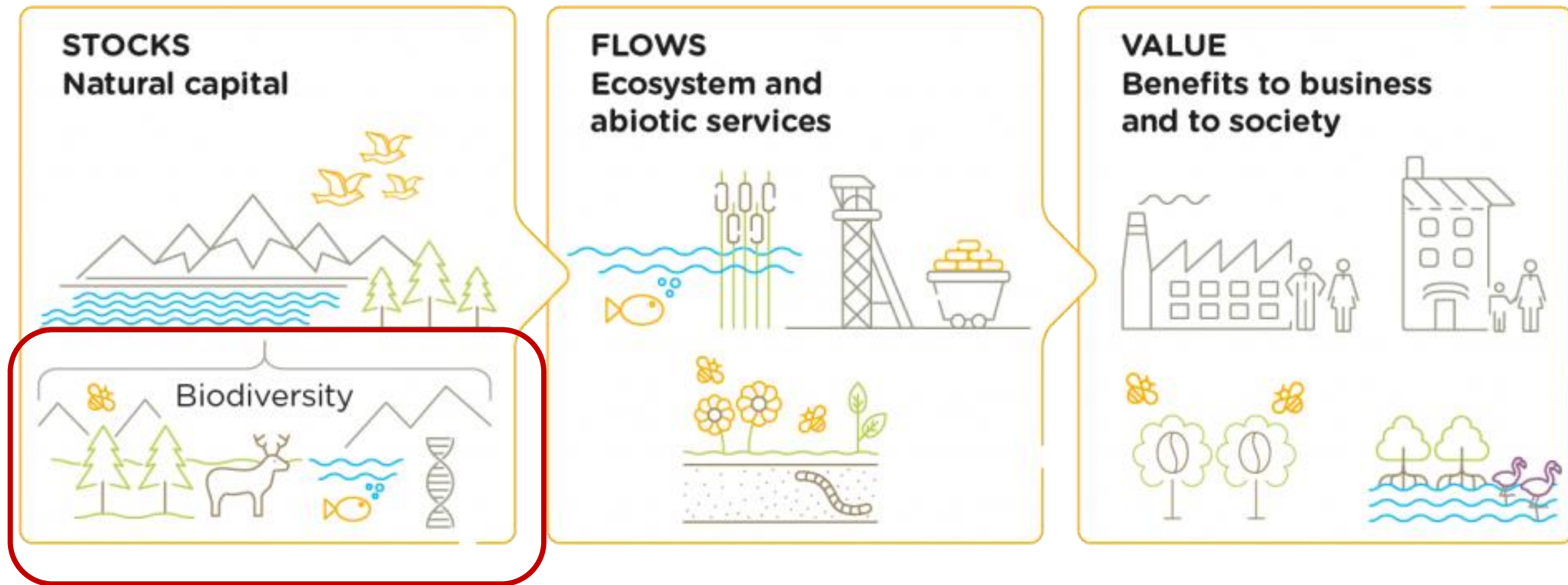


Figure 11: TNFD's building blocks for understanding nature

出典 : [220321-TNFD-framework-beta-v0.1-FINAL.pdf](#)

1. 生物多様性とは？

生物多様性は、ストックや自然資本に含まれる生命の多様性のレベルを表す



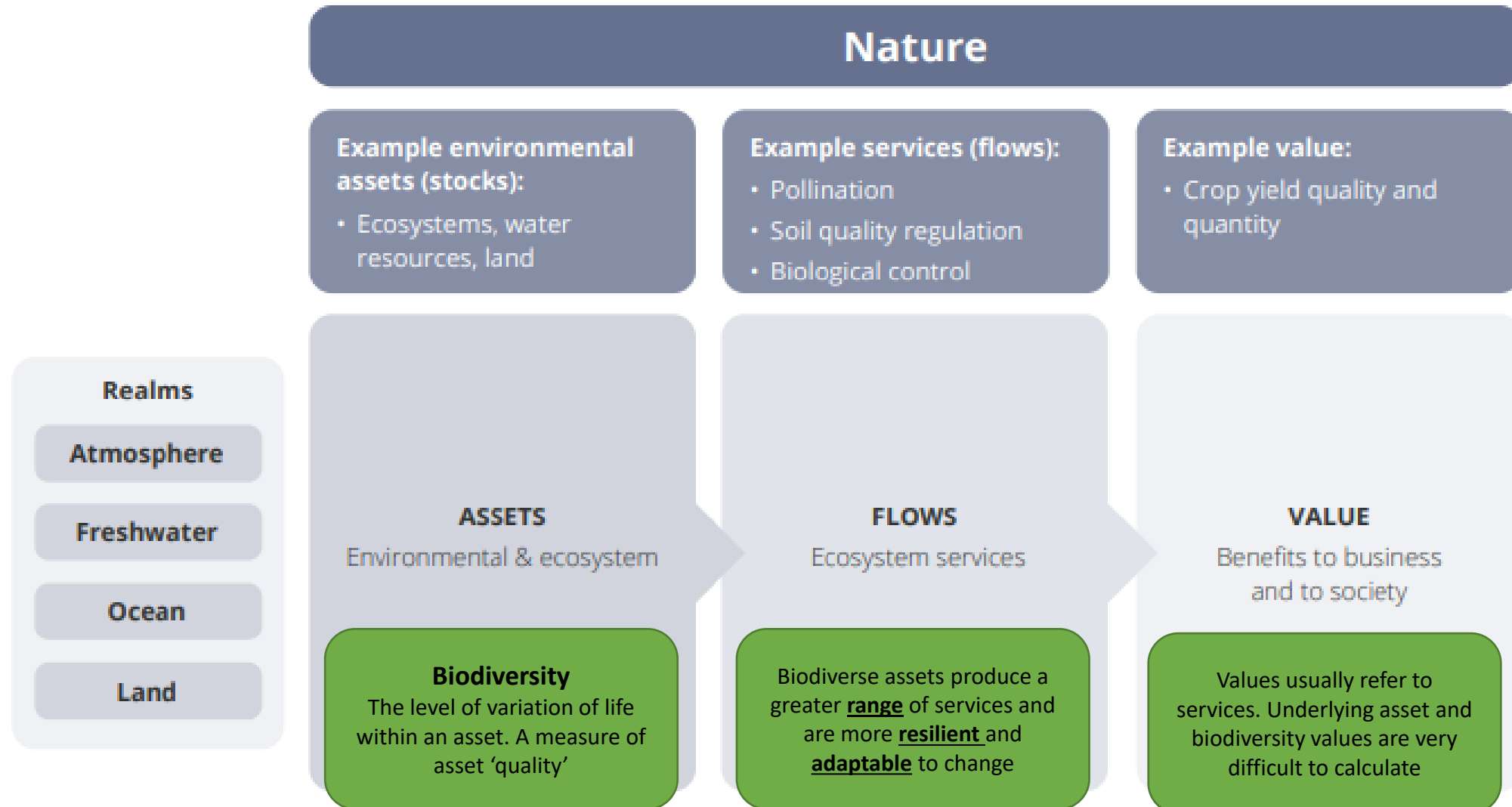
出典：Natural Capital Protocolより抜粋

1. 生物多様性とは何か？

- ▼ 生物多様性は、システムの「質」の尺度として、あるいは変化に対応するための「弾薬」として理解することができる。
- ▼ また、生物多様性システムは、「リスク分散型ポートフォリオ」のように理解することができる。
 - ・ サービス・リターンの範囲
 - ・ 変化への対応力
 - ・ 変化への適応力
 - ・ リスクとリターンの比較



1. 生物多様性とは何か？



2. 生物多様性と自然の関係

- ▼ 「生物多様性」は、環境システムの重要な、しかしかなり特殊な特性である
- ▼ システムとしての生物多様性は、その重要性を決定する唯一の特徴とはいえない
- ▼ 実際には、この言葉はもっと具体的に使われることが多い
 - 科学的な響きを持つ「種」の同義語として使われることもある
 - より一般的には、生態系や生成される生態系サービスなど、システム全体を表す略語として使われる
 - 「自然」（Nature）という言葉が、その総称として使用される傾向が強まっている
 - 環境リスクは「気候関連リスク」と「自然関連リスク」の2つに分類されつつある

3. 生物多様性／自然の現状

- ▼ 生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム（IPBES）による、自然界の状態：
 - ・ 陸上生態系75%、海洋生態系66%に大きな変化
 - ・ 絶滅の危機に瀕している種は1,000種
 - ・ 損失を食い止めるには、既存の取り組みでは不十分
 - ・ ティッピングポイントと不可逆的損失
 - ・ 気候より深刻？
- ▼ 国連生物多様性条約（CBD）1992年以降の行動のための政治的枠組み
 - ・ 1.5℃目標はないが、5つの戦略的目標を設定
 - ・ 2020年愛知目標がほぼ全て未達
 - ・ 2030年生物多様性枠組（GBF）の準備中



4. 生物多様性／自然とビジネスの関係

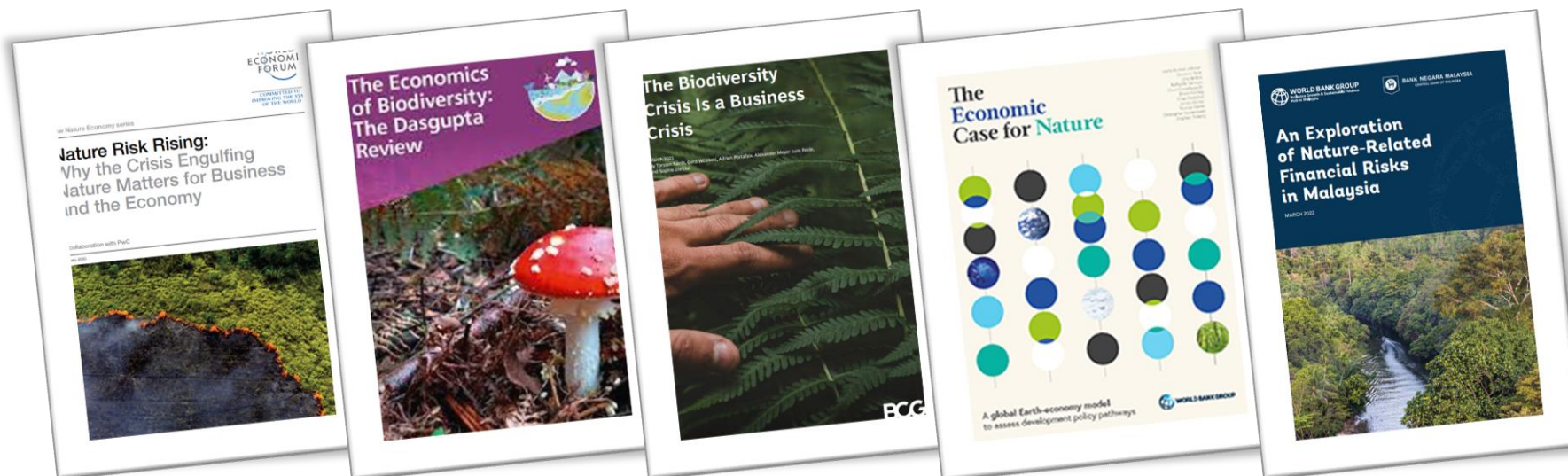
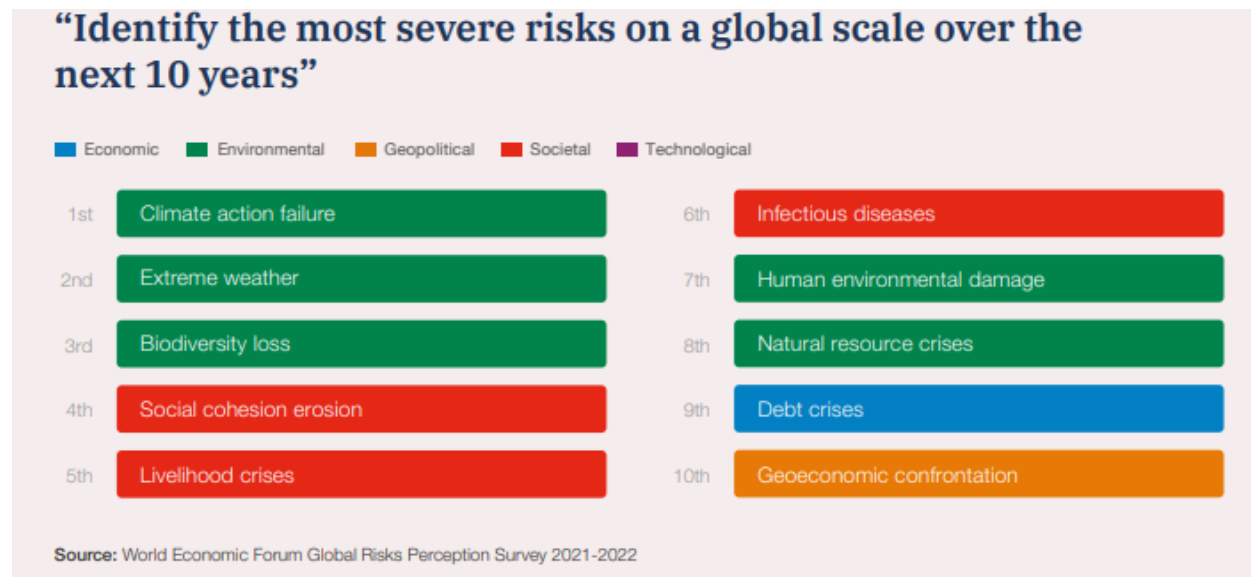


影響（IPBES WG評価中） 4つのバリューチェーンが生物多様性への90%の圧力を占めている。 ¹ • 食品部門 (50%) • インフラとモビリティ (25%) • エネルギー (10%) • ファッション (<10%)	リスク • 物理的なリスク • 過渡的なリスク • システミック
依存関係 どんなバリューチェーンも生態系サービスに依存している。 • 食品・繊維分野（土壌、受粉） • 不動産（洪水） • 資源採掘（淡水へのアクセス） • 最終的にはすべて？	機会 • 新市場 • 価値提案とブランドの向上 • 資本参加と事業シナジーの実現 • 自然に根ざした解決策（Nbs）

ENCORE :
セクターごとの影響や依存性、その結果として生じるリスクや機会を評価するために使用できるツール

¹ BCG、2021年

5. ビジネスにおける、生物多様性／自然の重要性



6. 企業による生物多様性への対応



▼ 企業は長い間、生物多様性への影響を認識してきたが、依存関係への注目度が高まっている

影響度の高いセクター（例：採掘業）が開発した生物多様性オフセット

ビジネスと生物多様性に関する様々な取り組み（例：EUビジネスと生物多様性プラットフォーム）

WBCSDの報告書では、関心が高まっているが、標準化の欠如が妨げになっている。

6. 企業による生物多様性への対応



- ▼ 金融機関は遅れをとっているが、生物多様性の損失や自然関連リスクに対する意識は高まっている

生物多様性保全に関するIFC（国際金融公社）PS6基準（生物多様性の保全及び持続可能な自然資源管理基準）

オランダ中央銀行（DNB）、気候変動リスク等に係る金融当局ネットワーク（NGFS）、金融セクターの生物多様性リスクへのエクスポージャーに関する報告書

Partnership for Biodiversity Accounting Financials（PBAF）生物多様性リスク評価基準の策定
（＝気候変動の「PCAF」の生物多様性版）

イングランド銀行、金融安定化に対する非気候リスクを考慮する権限を拡大

7. 生物多様性、自然、気候の関係



気候変動と自然は本質的に結びついている：自然への取り組みなくして1.5はありえない

▼ ミティゲーション

- ・ 生態系へのダメージと破壊は、世界のGHG排出量の大きな割合を占めている
- ・ 生態系の保全と回復により、相当量の温室効果ガスが吸収される

▼ レジリエンス

- ・ 生態系とそれが提供するサービスは、気候変動対策において重要な役割を果たす。例えば、湿地は沿岸の洪水リスクを軽減する上で重要な役割を果たす。

▼ アダプテーション

- ・ 例えば、森林は地域の気温を下げ、降水量を増やすという重要な役割を担っています。

▼ 生物多様性は、生態系が上記の各役割を果たす可能性を高める。

▼ 同時に、気候変動は、生物多様性の損失を引き起こす最も重要な要因の一つとして認識されており、負のフィードバックループを生み出しています。

7. 生物多様性、自然、気候の関係

▼ 政治的プロセスによって認識される気候と自然の関係



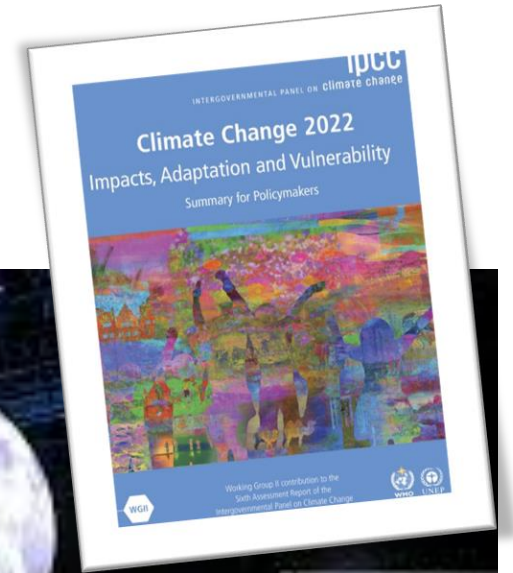
▼ COP26- The "Nature" COP

- 合意文書に含まれる
- 自然をテーマにしたアナウンス

▼ IPCC AR6

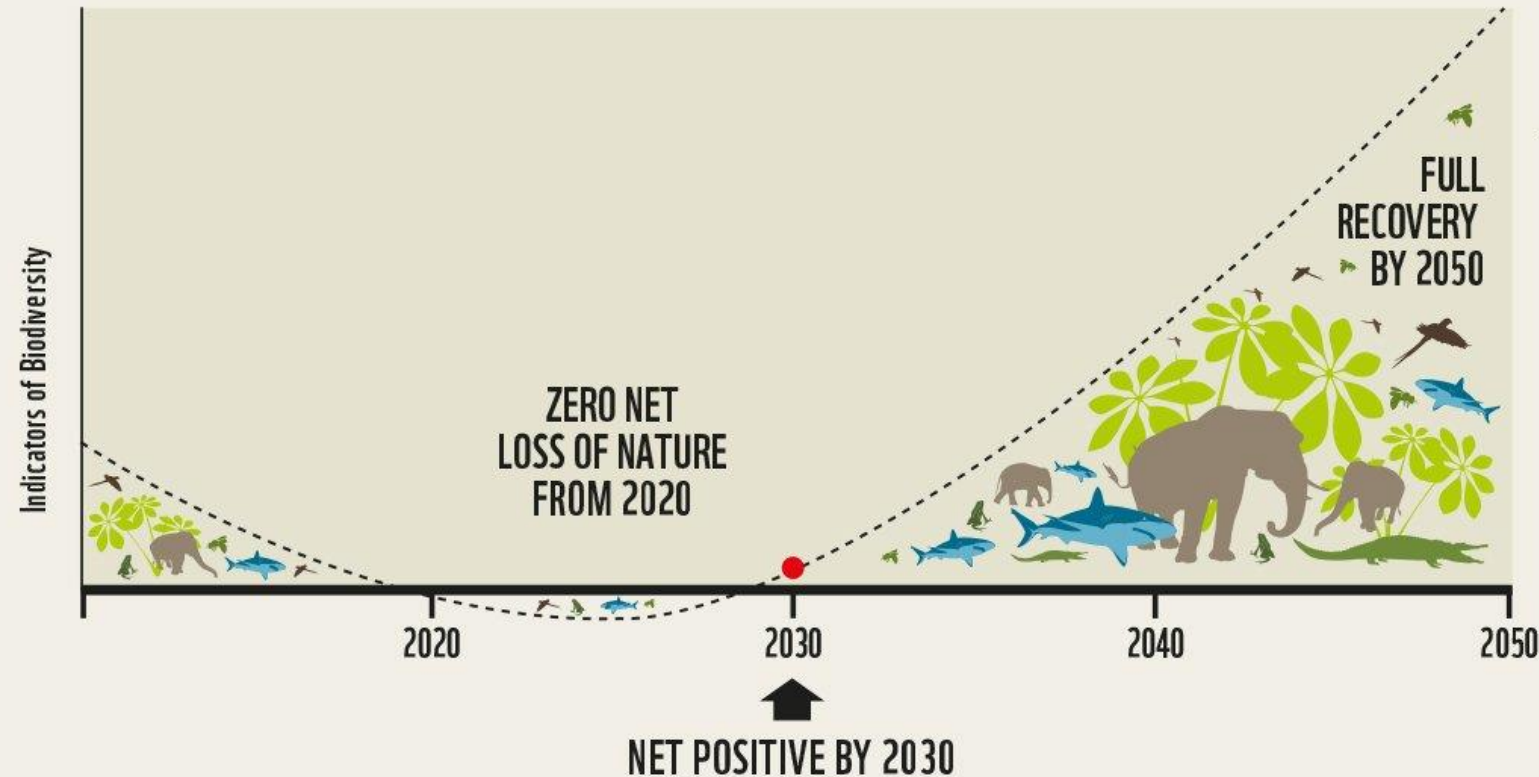
- 適応における生態系の役割

▼ UNFCCC - CBDリンク



8.ネイチャー・ポジティブとは？

Global Goal for Nature: Nature Positive by 2030



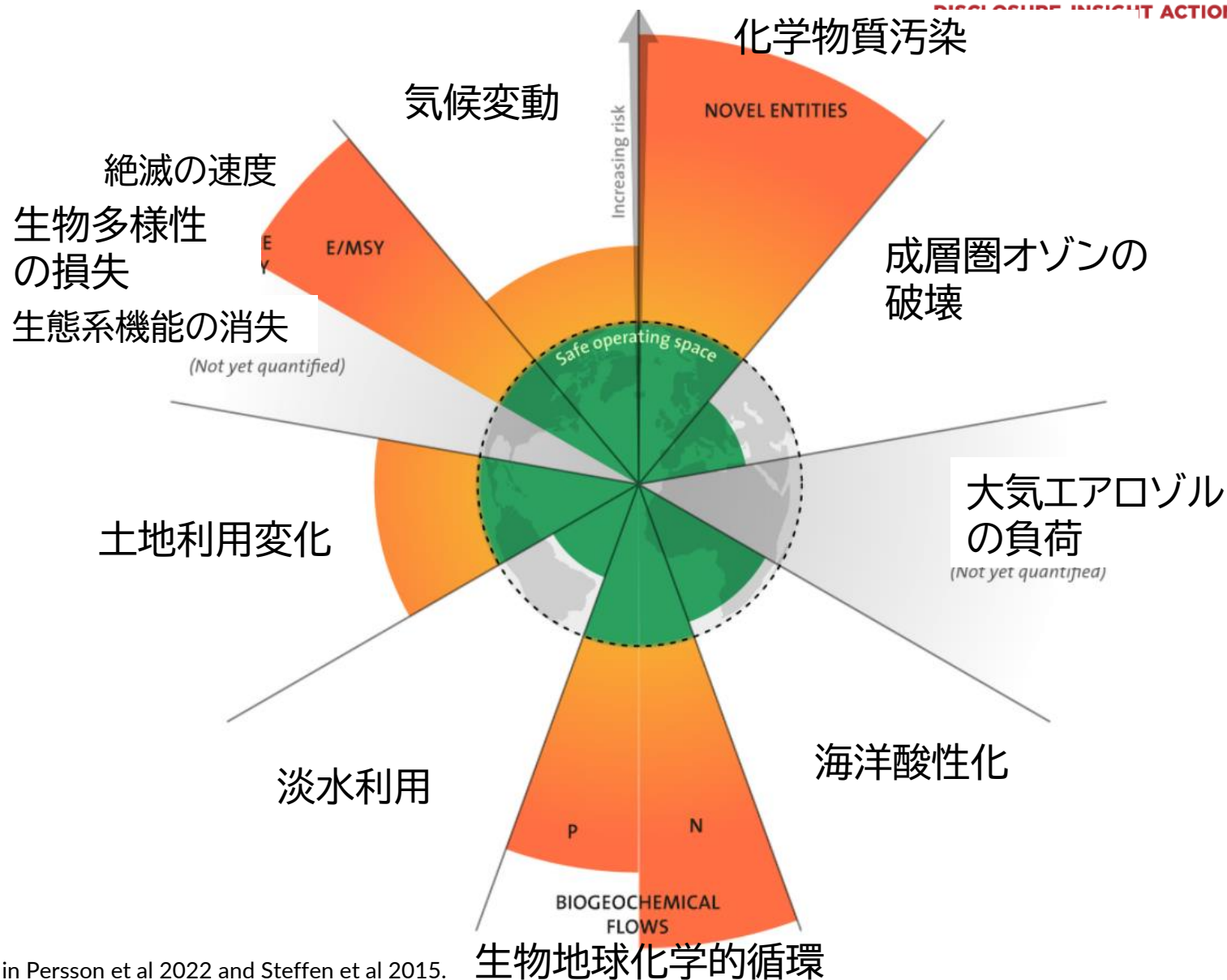
Nature positive paper
G7 2030 Nature Compact
Leaders Pledge for Nature
B4N Call to Action
SBTN position

生物多様性とCDP

活動範囲：プラネタリーバウンダリーをカバーする

プラネタリー・バウンダリー（地球の限界／人類が生存できる限界）

「気候変動」、「生物多様性の損失」、「土地利用変化」、「生物地球化学的循環」、「化学物質汚染」については、人間が安全に活動できる境界を越えるレベルに達している。



CDPのビジョンと目標

ビジョン

長期的に人々と地球のためになる経済の繁栄を目指す



ミッション

投資家、企業、都市、政府が、環境影響を測定して行動することでサステナブルな経済を構築することを促進する

環境に関する優先事項

以下の環境目標に対して、優先的に支援する

- ▼ GHG排出量を気温上昇1.5℃に抑える経路にまで削減する
- ▼ 健全な生態系を回復する

2025年目標

2025年新戦略は、上述に向けた取り組みのベースとなる

- ＞ 環境問題に対する透明性の向上
- ＞ 開示主体のネットゼロ&ネイチャーポジティブの世界への確実な移行
- ＞ より広範な経済のシステムの変革のための開示戦略の促進

CLIMATE



LAND



RESILIENCE



BIODIVERSITY



WASTE



OCEANS



FRESHWATER



FORESTS



FOOD



**WE WILL EXPAND OUR WORK TO COVER THE FULL RANGE
OF PLANETARY BOUNDARIES AND EARTH SYSTEMS**

This means adapting our disclosure framework to encompass both climate-related disclosures and the full range of nature-related disclosures

1. CDP質問書における生物多様性／自然



- ▼ 2025年までに、気候、水、森林だけでなく、関連するすべての環境関係について質問する統合的な質問書にしていく。
- ▼ 生物多様性に関しては、BNPパリバより支援を受けているが、CDPが最初に支援を受けた分野の一つである。
- ▼ IUCNの生物多様性報告ガイド（CORPORATE BIODIVERSITY REPORTING AND INDICATORS - SITUATION ANALYSIS & RECOMMENDATIONS）に基づき、生物多様性に関する6つの初期質問を開発し、気候変動質問書に掲載。

C15 生物多様性（本モジュールの目的と概要）



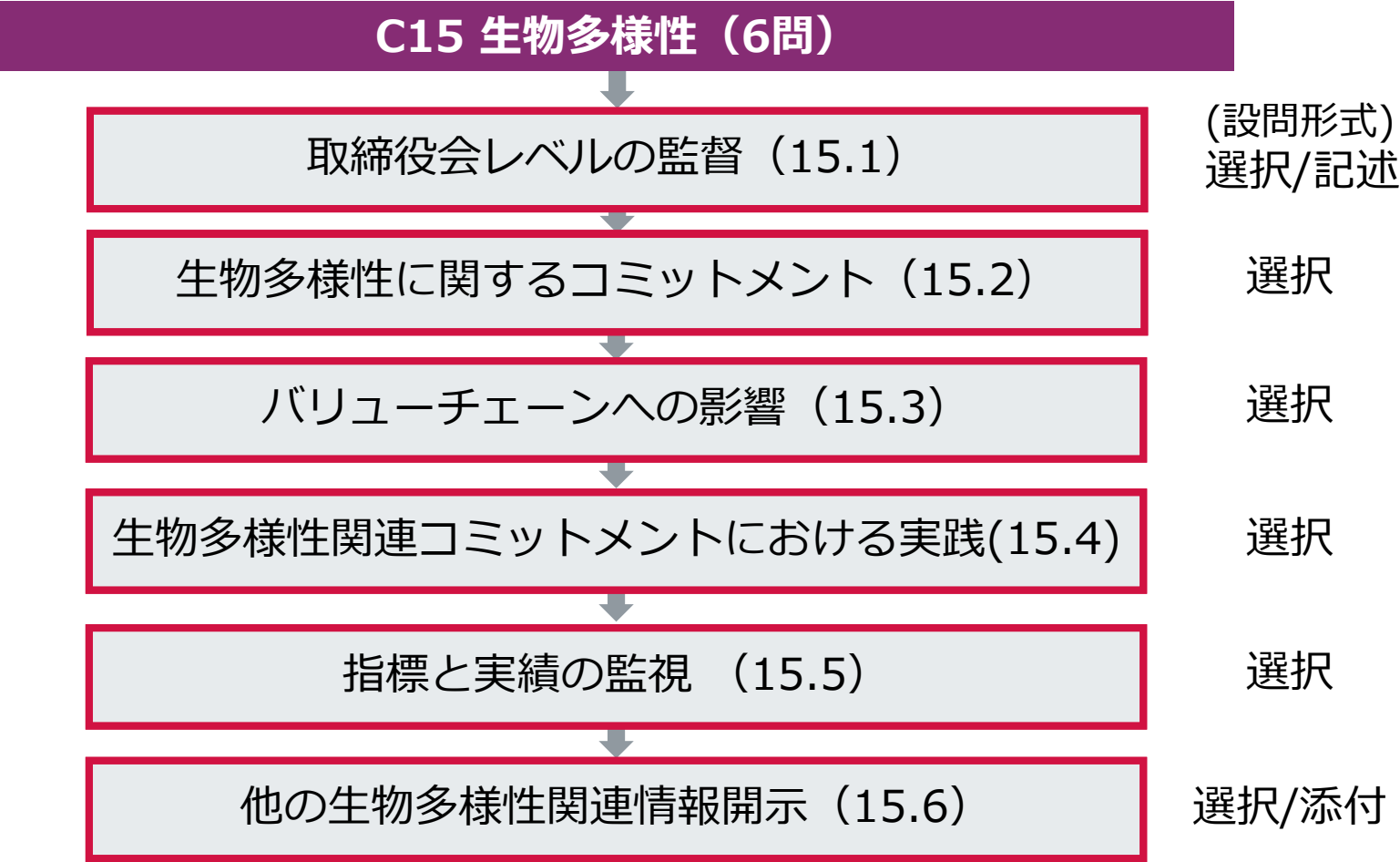
- ▼ CDPの目標は、**グローバルな投資意思決定において、生物多様性データが利用されるよう、生物多様性に関する企業活動の報告の標準を提供すること。**
- ▼ 最初のステップとして、気候変動質問書に、新たなモジュールとして、生物多様性の問題に関するガバナンス、コミットメント、監視、報告に関する幅広い質問を含める。
- ▼ これらの質問は、すべてのセクターと地域にとって重要であり、今後の生物多様性指標をカバーするものであり、金融機関と政策立案者の両方に対する生物多様性企業報告として、関連性と有用性の高さを保証しようとするもの。
- ▼ 生物多様性に関連する質問は、IUCN（国際自然保護連合）の「企業の生物多様性パフォーマンスの計画策定及びモニタリングのためのガイドライン」（Guidelines for planning and monitoring corporate biodiversity performance）（日本語訳は[こちら](#)）に沿って作成しており、企業が次のことを実証することを可能にするもの
 1. 企業の生物多様性への影響を理解し、どこに努力を集中すべきかを特定する
 2. 企業の生物多様性への悪影響を軽減するという野心と、企業の目標、目的、および主要な戦略について検討する
 3. 企業の成功を測定するために使用する指標（indicators and metrics）を決定する
 4. それらの成功を監視して開示する

C15 - 生物多様性



- ▼ CDPの2021-2025年戦略に沿って、質問書の対象となる環境問題の範囲を広げるための第一歩
- ▼ 生物多様性に関する6つの新しい質問で構成される新しいモジュール

2022年 気候変動
C0 はじめに
C1 ガバナンス
C2 リスクと機会
C3 事業戦略
C4 目標と実績
C5 排出量算定方法
C6 排出量データ
C7 排出量の内訳
C8 エネルギー
C9 追加指標
C10 検証
C11 カーボンプライシング
C12 エンゲージメント
C13 その他の土地管理の影響
C14 ポートフォリオへの影響
C15 生物多様性
C16 サインオフ
SCサプライチェーン
FW-FS金融サービス



C15 生物多様性



新しいモジュール

- ▼ 生物多様性に関する6つの新しい質問を含む、すべての回答企業に対する新しいモジュール。
- ▼ 回答者がどの程度生物多様性戦略を実施しているかについてのデータを収集することと、企業が情報を報告すべき重要な分野を示すためです。
- ▼ **スコアリング**：2022年サイクルでは、このモジュールは全質問にわたって、**採点対象外**です。



(C15.1) 生物多様性に関連する問題について、貴社内の取締役会レベルの監督や経営陣レベルの責任がありますか。

(C15.2) 貴社は生物多様性に関連するコミットメントへの署名もしくはイニシアチブに賛同したことがありますか。

(C15.3) 貴社はバリューチェーンが生物多様性に与える影響を評価していますか。

(C15.4) 生物多様性関連のコミットメントを推進するために、貴社は本報告年にどのような行動をとりましたか。

(C15.5) 貴社は、生物多様性関連活動の実績を監視するために、指標を使用していますか。

(C15.6) 本報告書年の生物多様性関連の問題に対する貴社の対応について、CDP回答以外の場所で情報を公表しましたか。その場合はその情報を添付してください。

C15 生物多様性

C15.1 生物多様性に関連する問題について、貴社内取締役会レベルの監督や経営陣レベルの責任がありますか。

生物多様性関連問題に関する取締役会レベルの監督や執行役員レベルの責任	生物多様性に関連した監督および目的の説明*
選択肢: ● はい、取締役会レベルの監督および執行役員レベルの責任の両方 ● はい、取締役会レベルの監督 ● はい、執行役員レベルの責任 ● いいえ、しかし今後2年以内に両方を設ける予定です ● いいえ、今後2年以内にも両方を設ける予定はありません	文章入力欄[最大2,500文字] ✓ 事業戦略、主要な行動計画、リスク管理方針、年間予算、将来の財務計画の検討と指導、あるいは組織の業績目標の設定、実施と業績の監視、主要な資本支出、買収、売却の監督において、取締役会、取締役会委員会および／または経営幹部が生物多様性に関する問題を検討しているかどうか、また、検討の内容を記載することができます。

C15 生物多様性

C15.2 貴社は生物多様性に関連する公開のコミットメントへの署名もしくはイニシアチブに賛同したことがありますか。

生物多様性に関連して対外的なコミットメントをしたか、あるいは生物多様性に関連したイニシアチブを支援したかを示してください	生物多様性関連のコミットメント*	支援したイニシアチブ*
選択肢: ● はい、生物多様性に関連した宣言を行い、生物多様性に関連したイニシアチブを公に支援しました ● はい、宣言のみしました ● はい、イニシアチブを支援のみしました ● いいえ、今後2年以内にそうする予定です ● いいえ、今後2年以内にもそうする予定はありません ✓ 貴社が生物多様性に関する公開のコミットメントを行っている場合は、「はい」を選択してください。 ✓ 内部または非公開のコミットメントである場合は、「はい」を選択しないよう留意ください。	該当するものをすべて選択: ● ネット・ポジティブ・ゲインへのコミットメント (※) ● ノー・ネット・ロスへのコミットメント (※) ● ミティゲーション・ヒエラルキー・アプローチの採用 (※) ● 法的に指定された保護地域の探査または開発を行わない宣言 ● 法的に指定された保護地域を尊重する宣言 ● 絶滅危惧種と保護種に対する悪影響の回避に対する宣言 ● 高保全価値地域の転換を行わない宣言 ● 先住民の「自由意思による、事前の、十分な情報に基づく同意(FPIC)」を確保する宣言 ● ワシントン条約での規制対象種の取引を行わない宣言 ● その他、具体的にお答えください	該当するものをすべて選択: ● CBD 生物の多様性に関する条約 ● SDG ● CITES ● F4B - 生物多様性に対する融資 ● PBAF - 生物多様性財務報告のパートナーシップ[FSのみ] ● その他、具体的にお答えください CITES：ワシントン条約（絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約） ※の用語説明については次のスライドを参照。

C15 生物多様性（用語説明）

- ▼ **ミティゲーション・ヒエラルキー・アプローチ (Mitigation Hierarchy Approach)** : 開発プロジェクトが生物多様性や生態系サービスに与える負の影響を可能な限り抑えるためのツール。[回避]「最小化」「復元」「オフセット」の4つのアクションから構成され、保全のニーズと開発の優先順位のバランスをとるためのメカニズムを構築することにより、生物と自然資源の持続可能な管理を支援するベストプラクティスのアプローチ。
- ▼ **ネット・ポジティブ・インパクト (Net Positive Impact)** : プロジェクトに関連する生物多様性及び生態系サービスへの影響が、ミティゲーション・ヒエラルキー・アプローチに従った対策によって相殺され、正味の利益が生じる時点。ネットゲインと呼ばれることもある。
- ▼ **ノー・ネット・ロス (No Net Loss)** : プロジェクトに関連する影響が、ミティゲーション・ヒエラルキー・アプローチを適用した対策によって均衡し、損失が残らない時点。

(出所 : A Cross-Sector Guide for Implementing the Mitigation Hierarchy (2015) Cross Sector Biodiversity Initiative (CSBI))

C15 生物多様性

C15.3 貴社はバリューチェーンが生物多様性に与える影響を評価していますか。

貴社は、生物多様性に対するバリューチェーンの影響を評価していますか？

選択肢:

- はい、自社の上流と下流両方のバリューチェーンでの生物多様性に対する影響を評価しています
- はい、自社の上流のバリューチェーンのみでの生物多様性に対する影響を評価しています
- はい、自社の下流のバリューチェーンのみでの生物多様性に対する影響を評価しています
- いいえ、しかし今後2年以内に生物多様性関連の影響を評価する予定です
- いいえ、今後2年以内にも生物多様性関連の影響を評価する予定はありません

- ✓ 企業がこの評価を行うことは、生物多様性への影響と依存の理解、生物多様性課題の監視、取組の促進、方法の設定への第一歩となります。
- ✓ **TNFDのLEAPアプローチ**の「発見する」「診断する」、**SBTNの5つのステップ**の「分析評価」「理解優先順位付け」、**IUCN**の「企業の生物多様性パフォーマンスの計画とモニタリングのためのガイドライン」の「**ステージ1：優先事項**」の要件とも合致します。
- ✓ 生物多様性に影響を与える可能性のある活動や業務を特定するだけでなく、影響を受ける種、生息地、生態系サービスに関する具体的な情報を収集することを想定しています。

C15 生物多様性

C15.4 生物多様性関連コミットメントを推進するために、貴社は本報告年にどのような行動を取りましたか。

貴社は生物多様性関連コミットメントを進展させるために報告対象期間に行動を取りましたか？	生物多様性関連コミットメントを進展させるために講じた措置の種類*
選択肢: • はい、生物多様性関連コミットメントを進展させるために措置を講じています • いいえ、生物多様性関連コミットメントを進展させるために措置を講じていません • いいえ、生物多様性関連コミットメントを進展させるために措置を講じていませんが、今後2年以内にそうする予定です • いいえ、生物多様性関連の行動に着手する予定はありません	該当するものをすべて選択: • 土地/水保護 • 土地/水管理 • 生物種管理 • 教育および認識 • 法律および方針 • 生活的、経済的、およびその他のインセンティブ • その他、具体的にお答えください

- ✓ この質問は、前の質問で定義された範囲内で、企業が生物多様性関連の圧力/問題にどのように取り組むかを確認します。企業ビジョン、測定可能な目標と目標の開発、そしてそれらを実現するための重要な戦略に焦点を当てています。**IUCNガイドラインの「ステージ2：野心」**の要件と一致。投資家やその他のデータユーザーは、それらの将来の戦略的イノベーションや財務上の意思決定に関心を持っています。
- ✓ 措置の種類を選択肢は、CDP報告ガイダンスを参照、詳しくはIUCN「Conservation Actions Classification Scheme (Version 2.0)」を参照ください。アクションの具体的な事例も紹介されています。
- ✓ 全てを実施するのではなく、最も緊急で重要なアクション、また5年以内に実現可能なものを優先することが推奨されています。既に実施されているアクションも参照の上、選択することも重要です。

C15 生物多様性



C15.5 貴社は、生物多様性関連活動の実績を監視するために、生物多様性指標を使用していますか。

貴社は生物多様性実績をモニタリングするために指標を使用していますか？	生物多様性実績をモニタリングするために使用した指標
選択肢: ● はい、指標を使用しています ● いいえ、使用を使用していませんが、今後2年以内に使用する予定です ● いいえ	該当するものをすべて選択: ● 状態と便益の指標 ● 外部圧力の指標 ● 対応の指標 ● その他、具体的にお答えください

- ✓ 生物多様性へのインパクトに関する企業レベルの評価は、さまざまな活動や地理的地域によるデータの集計を可能にして行うものであり、それには強固な指標が極めて重要です。この質問では、企業が指標の使用を実証し、自社の生物多様性目標（Goals）と目的（Objectives）への進行を追跡し、その介入の成功度を評価することを助けます。
- ✓ この質問への回答は、**IUCNガイドラインの「ステージ3：指標」**の要件と一致するものです。そこでは、学習と向上の励みとなる生物多様性データを企業が収集して共有し、分析することを推奨しています。
- ✓ 生物多様性実績をモニタリングするために使用した指標に関する説明は次のスライドを参照。

C15 生物多様性（用語説明）



◆ 生物多様性の実績を監視するために使用する指標の選択肢

- ✓ **状態と便益（恩恵）の指標（State and benefit indicators）**：前者は生息地と種の改善に焦点を当てた指標であり、後者は生態系サービスの目標を監視する利益に焦点を当てた指標。
- ✓ **（外部）圧力の指標（Pressure indicators）**：目標を追跡するのに有効な指標。例えば、生息地の損失に焦点を当てた企業目標には、生息地の被覆損失の傾向に関するデータを収集した「生息地の被覆の変化」という指標を設定することができる。
- ✓ **対応の指標（Response indicators）**：企業の戦略に基づく対応指標。例えば、保護区のカバー率を設定するため。

（出所：[CDP2022気候変動報告ガイドンス](#)）

- ✓ **生物多様性指標**は、生物多様性の状態と傾向を監視し、生物多様性政策と管理プログラムの有効性を継続的に改善するための情報をフィードバックするために使用するもの。
- ✓ 以下を監視、測定するために有用：
 - a) 種の健康状態や生態系の完全性などの種や生態系の状態
 - b) 土地や水の利用動向、生息地の損失、侵入種などの圧力や脅威
 - c) 生物多様性重要地域の保護などの保全対応
 - d) 淡水がもたらす生態系サービスなどの人間への利益
- ✓ 留意点：**企業が新たな指標を開発する必要はない**。既に、生物多様性の優れた指標の例として、愛知目標やSDGsのモニタリングのために開発されたものがある。**既存の指標を見直し、適切な指標を選択することが重要**。
- ✓ 指標例については、**IUCNガイドライン**（[2021-009-En.pdf \(iucn.org\)](#)）（日本語訳は[こちら](#)）を参照

C15 生物多様性（用語説明）

Focus of company goal	Common indicator to use across the company	Data collected	Examples of data collection methods
-----------------------	--	----------------	-------------------------------------

Benefits			
Ecosystems for nature and people	Abundance of species used sustainably by farmers and local communities	Trends in populations of identified species used by people around plant/site	Transect counts (indiv. Acoust. devices)
	Volume of timber and non-timber forest products harvested	Trends in product volumes (e.g., fruit, nuts, medicines)	Socio-e surveys
	Fisheries production	Catch volumes	Observ surveys
	Income generated from sale of harvested resources (e.g., agroforestry crops, fisheries, etc.)	Trends in income	Socio-e surveys
	Index of human wellbeing measures	Trends in human wellbeing derived from ecosystem services	Socio-e surveys
	Water quality	Trends in water quality	Stream Assess. Protoc. Chemi
	Social Progress Index	Trends in human wellbeing	Socio-e surveys
	Income from nature-based tourism	Trends in income from tourism	Socio-e surveys
	Ecosystem Integrity	Trends in integrity	Existin

State	Focus of company goal	Common indicator to use across the company	Data collected
Natural habitats	Threatened species	Population trends (abundance) of key species	Tre nur
		Wild Bird Index	Tre abundance of birds
		Wildlife Picture Index	Trends in abundance and diversity of species identified in camera traps
		Red List Index	Trends in status of key species
		Green Status Index	Trends in Green Status
		Species Threat Abatement and Restoration metric	Trends in the achieved impact of conservation interventions on extinction risk over time

Focus of the objective	Common indicator to use across the company	Data collected	Examples of data collection methods
Loss of habitats (e.g., forest, wetlands, coral reefs)	Habitat cover change	Trends in habitat loss	Satellite-based remote sensing
	Habitat fragmentation	Trends in fragmentation	Satellite-based remote sensing
Species offtake	Number of incidents of illegal or unsustainable activity (logging, hunting, etc)	Trends in incidents and levels of offtake	Law enforcement records Socio-economic surveys
	Number of animals strikes (e.g., by boats or turbines)	Trends in animal strikes	Company observers Transect counts

Focus of strategies	Common indicators to use across the company	Data collected	Data collection methods
Alien invasive species	Po inv		
Pollution	Wi		
	Establish protected areas	Coverage of protected areas (formal and informal)	Trends in protected area coverage Satellite-based remote-sensing Official documents Mine/farm maps
	Manage protected areas	Protected area management effectiveness	Trends in management effectiveness Management Effectiveness Tracking Tool
	Avoid operating in areas important for biodiversity	Number of protected areas, World Heritage Sites and KBAs the company operates in	Trends in incursions into sensitive areas Satellite-based remote-sensing Project plans Staff observations and reports
	Plant threatened trees to restore forests	Number of trees planted: number surviving; area planted	Trends in tree planting and survival Direct counts
	Restore coral reefs	Number of artificial reefs established: area of coral cover	Trends in reef development Direct counts
	Remove alien invasive species	Number of alien species eradicated	Trends in eradication Reports from staff or implementing partners (e.g., agronomists, consultants)
	Improve soil management practices	Number of farms applying approved techniques	Trends in level of adoption of methods Reports from staff or implementing partners (e.g., agronomists, consultants)
	Improve wastewater management practices	Number of farms applying approved techniques	Trends in level of adoption of methods Reports from staff or implementing partners (e.g., agronomists, consultants)
	Sustainable sourcing	Proportion of products or raw materials from certified sources	Trends in levels of certification Certification bodies Staff reports Audits
	Fund conservation projects	Level of investment in biodiversity	Trends in funding for conservation and restoration Company accounting Partners' financial reporting

- ✓ 各項目（状態と便益（恩恵）の指標（State and Benefit indicators）、（外部）圧力の指標（Pressure indicators）、対応の指標（Response indicators）毎の指標リストは、**IUCNガイドライン**（“Stage 3: Develop a framework of linked core indicators that allows data aggregation at corporate level”（P38-47））（日本語訳は[こちら](#)）を参照。

C15 生物多様性



C15.6 本報告書年の生物多様性関連の問題に対する貴社の対応について、CDP回答以外の場所で情報を公表しましたか。その場合はその情報を添付してください。

報告書の種類	内容要素*	文書を添付し、文書内で関連する生物多様性情報が記載されている場所を示します*
選択肢: - メインストリームの財務報告書で - 他の規制当局の様式に基づいて - 自主的に作成する持続可能性報告書またはその他の自主的発信情報で - 公表していない - その他、具体的にお答えください	該当するものをすべて選択: - 生物多様性関連方針またはコミットメントの内容 - ガバナンス - 生物多様性に対する影響 - 生物多様性指標の詳細 - 公共政策とロビー活動に対する影響 - リスクと機会 - 生物多様性戦略 - その他、具体的にお答えください	[文章記入欄、250文字] 文書をここに添付します ✓ 必ず文書を添付する必要があります。URLは認められないためご注意ください（今後いつでも完全に閲覧可能な固定された回答を経時的に維持する必要があります）。

- ✓ 投資家は、非財務指標の一つとして、生物多様性問題がどのように制度開示書類である財務報告書に統合されてきたかを理解したいと考えています。この問題を企業の業績の一環としてどのように考えているのか、どこで伝達しているのか、またその伝達方法がベストプラクティスに沿ったものかどうか確認することを希望しています。
- ✓ この質問への回答は、**IUCNガイドラインの「ステージ4：実施」**の要件と一致するものです。そこでは、企業各社が収集するデータを共有することを推奨しています。

2. 生物多様性／自然分野における他のイニシアチブとの連携



- CBD COP15 生物多様性グローバル・フレームワーク
- ネイチャーSBT（Science Based Targets：科学的根拠に基づく目標）（SBTs for NatureまたはSBTN）
- 自然関連開示に関するタスクフォース（TNFD）ベータ版フレームワーク
- Global Reporting Initiative GRI 304 生物多様性（更新版）
- CDSB生物多様性関連情報開示ガイダンス
- EUビジネスと生物多様性「ビジネスのための生物多様性施策の整合性（ALIGN）」について
- 欧州サステナビリティ・レポーティング・スタンダード。E4：生物多様性と生態系



SCIENCE BASED TARGETS NETWORK
GLOBAL COMMONS ALLIANCE



Taskforce on Nature-related
Financial Disclosures



EFRAG

European Financial Reporting Advisory Group

Q & A

2022年CDP関連資料

CDPが提供している主な資料(リンク集)

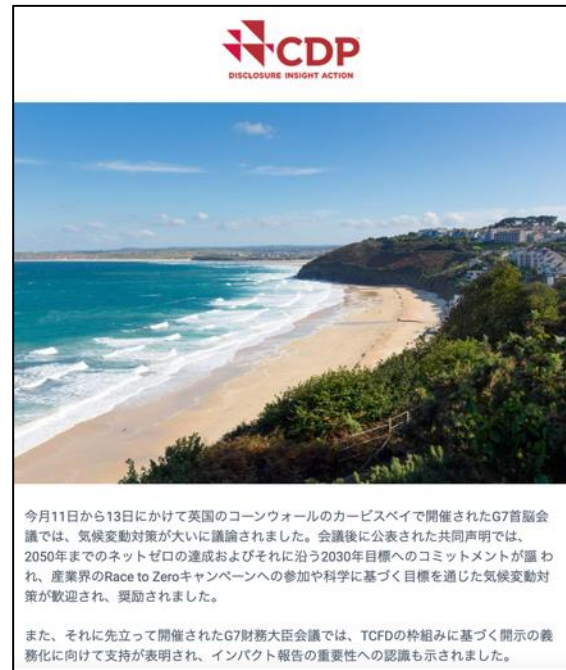
- ▼ よくあるご質問(FAQ)
- ▼ 回答ダッシュボード使用方法(アカウントの作成など)
- ▼ オンライン回答システム使用方法
- ▼ スコアリングイントロダクション
- ▼ 気候変動・水セキュリティ・フォレスト質問書
- ▼ 各質問書に関するガイダンス資料・スコアリング基準
- ▼ 各質問書に関するウェビナー(動画・資料)
- ▼ 各質問書の前年からの変更点
- ▼ 公開されている他社回答へのアクセス
- ▼ 日本語版気候変動・水セキュリティ・フォレスト報告書
- ▼ CDPジャパンが開催するセミナー情報(過去の録画・資料含む)

CDPニュースレターのご案内



CDPジャパンでは、ニュースレターの配信を行っております。ウェビナーやシンポジウム、レポートに関する最新の情報を提供しておりますので、ぜひご登録ください。

ご登録フォーム





CDPジャパン事務局

Address: 東京都千代田区大手町2-2-1新大手町ビル3階



Tel: +81 (0)3 6225 2232



www.cdp.net/ja/japan (日本語サイト)



Contact email address:
japan@cdp.net

恩恵の指標

恩恵 Benefits			
自然と人間の ための生態系	農業者や地域社会で持続的に利用されている種の豊富さ	工場・サイト周辺の人々が利用する種の個体数の推移	トランセクト調査（個体や痕跡） 音声レコーダー
	森林からの木材および非木材産物の収穫量	製品数量の推移（果物、ナッツ、医薬品など）	社会経済調査
	漁業生産	漁獲量	企業の観察者 市場調査
	収穫された資源（アグロフォレストリーの産物、魚介類など）の販売から得られる収入	収入の推移	社会経済調査
	人間の幸福度を測る指標	生態系サービスに由来する人間の幸福度の推移	社会経済調査
	水質	水質の推移	流水環境の目視評価手順：SVAP 化学分析
	社会進歩指数（Social Progress Index）	人間の幸福度の推移	社会経済調査
	自然体験型観光による収入	観光による収入	社会経済調査
	生態系健全性指数（Ecosystem Integrity Index）	健全性の推移	既存のデータベース

状態の指標

状態 States			
自然生息地	生息地範囲の変化	森林破壊の傾向や復元	衛星リモートセンシング
	種の多様性	種数の推移	トランセクト調査 音声レコーダー
	キーになる種の個体数の推移 (豊かさ)	種数の推移	トランセクト調査 音声レコーダー
	森林地域の陸地面積に占める割合	森林に覆われた KBA の相対的な割合の推移	衛星リモートセンシング KBA データベース
	水質	水質の推移 (汚染物質や溶存酸素量などのレベル)	流水環境の目視評価手順: SVAP 化学分析
	生息地の健全性	生息地の健全性を示す指標種 (汚染に強い水生生物、森林依存性鳥類など) の多様性と豊富さの推移	トランセクト調査 トンボ指数 森林性鳥類指数

状態の指標

企業目標の 焦点	企業全体で使用する共通指標	収集したデータ	データ収集方法の例
絶滅危惧種	キーになる種の個体群の推移 (豊かさ)	種の個体数の推移	トランセクト調査（個体 や痕跡） 音声レコーダー
	野鳥指数	鳥類の相対的な生息数の推移	トランセクト調査（個体 や痕跡） 音声レコーダー
	野生生物画像指数（WPI）	自動撮影カメラで確認された 種の豊富さと多様性の傾向	自動撮影カメラ（実行 可能な場合と場所なら）
	レッドリスト指数（RLI）	キーになる種の状態の推移	IUCN レッドリスト (国内)
	グリーン・ステータス指数 (GSI: Green Status of Species)	グリーン・ステータスの推移	IUCN グリーン・ステー タス
	絶滅危惧種への脅威の緩和と 回復の指標（STAR metric）	絶滅リスクに対する保全活動 の達成効果の時系列変化	レッドリスト・データ 現地調査

圧力の指標

目的の焦点	企業全体で使用する共通指標	収集したデータ	データ収集方法の例
生息地の喪失（例：森林湿地帯、珊瑚礁）	生息地の分布の変化	生息地の損失の推移	衛星リモートセンシング
	生息地の断片化	断片化の推移	衛星リモートセンシング
種の損失	違法または持続不可能な活動の発生件数（伐採、狩猟など）	事件数と取引レベルの推移	法執行機関の記録 社会経済調査
	動物衝突の件数（例、ボート、タービン）	動物衝突の件数の推移	企業の観察者 トランセクト調査
侵略的外来種	主要な侵略的外来種の個体数の推移	種数の推移	トランセクト調査 捕獲調査 音声レコーダー
汚染	水質	水質の推移 （汚染物質や溶存酸素量などのレベル）	流水環境の目視評価手順（SVAP） 化学分析
	汚染に強い水生生物の種の多様性と個体数の多さの指標	生息地の健全性の指標となる種の多様性と個体群規模の推移	トランセクト調査 トンボ指数
水の過剰使用	水位	河川や湿地や貯水池の水位の変化	直接観測

訳注：トランセクト調査とは、生態学では、野外調査において、任意の線上あるいは線から一定の範囲の対象生物の個体や足跡などの痕跡等を調査する手法です。なお、原文は transect counts であり、個体数や密度推定まで含めた手法の意味です。

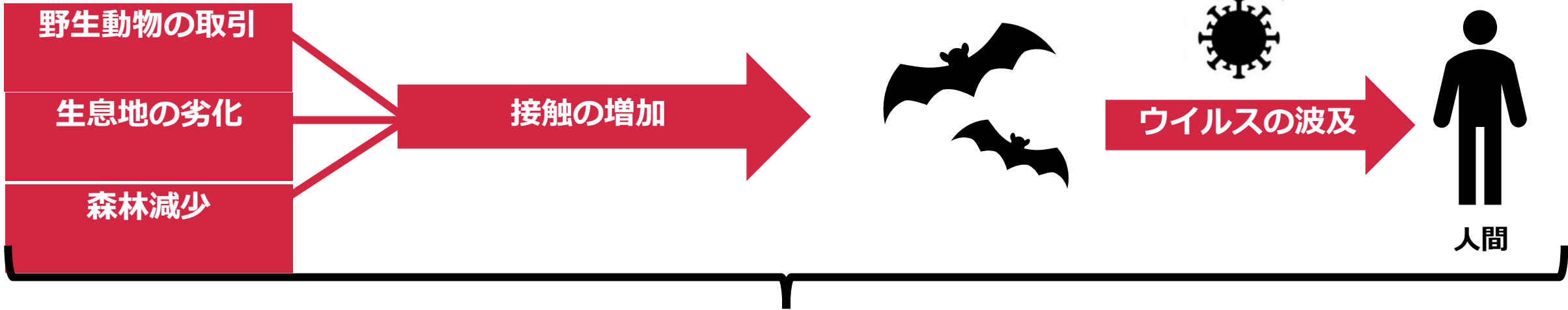
対応の指標

戦略の焦点	企業間で使用できる共通の指標	収集したデータ	データ収集方法
保護地域を設定する	保護地域の範囲（公式と非公式）	保護地域の範囲の推移	衛星リモートセンシング 公文書 鉱山・農場地図
保護地域を管理する	保護地域管理の有効性	管理効果の推移	管理効果の追跡ツール
生物多様性のために重要な地域での操業を回避する	企業が運営する保護地域、世界遺産、KBA の箇所数	繊細な地域への侵入の推移	衛星リモートセンシング プロジェクト計画 スタッフの観察と報告
絶滅危惧種を植樹して森林を再生する	植樹数：生存数、植樹面積	植樹数と生存率の推移	直接計数
珊瑚礁を回復する	人工珊瑚礁の数 確立された珊瑚礁の範囲	珊瑚礁の増加の推移	直接計数
侵略的外来種を駆除する	侵略的外来種の駆除数	駆除の推移	スタッフや実施パートナー (例：農学者、コンサルタント) からの報告
土壌管理方法を改善する	承認された技術を適用している農園数	承認された技術の採用レベルの推移	スタッフや実施パートナー (例：農学者、コンサルタント) からの報告
廃水処理方法を改善する	承認された技術を適用している農園数	承認された技術の採用レベルの推移	スタッフや実施パートナー (例：農学者、コンサルタント) からの報告
持続可能な調達を行う	認証機関からの製品や原料の使用率	認証レベルの推移	認証機関 スタッフの報告 監査
環境保全プロジェクトに資金援助する	生物多様性への投資レベル	環境保全と復元のための資金援助の推移	企業の会計報告 パートナー企業の財務報告

土地利用の変化とパンデミックリスク



人類起源の影響



なぜか？

